科目ナンバリング	U-LAS02 20019 LJ37						
授業科目名<英訳>	ラテン語Ｂ Latin B			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 西井　奨		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

ラテン語は古代ローマ世界で使われていた言語である。ここから後のイタリア語・フランス語・カタルーニャ語・スペイン語・ポルトガル語・ルーマニア語といったロマンス系の諸言語が派生した。

またラテン文学史において古典期とされる時期に書かれた作品は、古代ローマ世界の後、現代のヨーロッパ諸国に連なる国々が成立していってからも、表現・文章の規範として重んじられ続けてきた。それゆえラテン語を学ぶことは、ロマンス諸語のみならず英語・ドイツ語などの他のヨーロッパの言語や文化をより深く理解することにも繋がる。

古代ローマ世界でラテン語が最も文化的な高みに達したのは、特に紀元前1世紀から紀元後1世紀にかけてである。この時期にキケロー・カエサル・リーウィウス・ウェルギリウス・ホラーティウス・オウィディウス・セネカ・タキトゥスといった類まれなるラテン語作家たちが輩出された。ラテン語を学ぶにあたっては、こういった作家たちのラテン語表現を文法的に正確に理解できることが重要となる。

このラテン語A・ラテン語Bでは、1年で一通りラテン語の文法を学び終えて、辞書と文法書を頼りにラテン語文献を独力で読めるようになることを目指す。

[到達目標]

後期開講のラテン語Bの到達目標は、ラテン語の分詞や動形容詞（gerundive）、動詞の接続法の変化と用法ついて理解し、目的文や条件文や間接話法などの複文に慣れることで、古典古代のラテン語作家たちの文章を辞書と文法書を頼りにして読めるようになることである。

[授業計画と内容]

教科書『新ラテン文法』を毎回2～3課ずつ進める。
後期では教科書を最後まで終える。

1　不規則動詞・数詞（第33課・第34課）
2　絶対的奪格・対格不定法（第35課・第36課）
3　主格を伴う不定法・接続法現在（第37課・第38課）
4　非人称表現・代名詞的形容詞（第39課・第40課）
5　接続法未完了過去・目的分詞・動名詞（第41課・第42課）
6　動形容詞・接続法完了/接続法過去完了（第43課・第44課）
7　ギリシア語系名詞・等位接続と従属文の概観（第45課・第46課）
8　名詞的な目的文・副詞的な目的文（第47課・第48課）
9　傾向/結果文・間接疑問文（第49課・第50課）
10　比較文・間接話法（独立文）（第51課・第52課）
11　理由文・接続詞quodの用法・条件文（第53課～第55課）
12　譲歩文・時間文・関係文（第56課～第58課）

ラテン語Ｂ(2)へ続く↓↓↓

ラテン語Ｂ(2)

13 接続詞cumの用法・接続詞utの用法（第59課・第60課）
14 間接話法（従属文全般）・間接話法（条件文）（第61課・第62課）
≪定期試験≫
15 フィードバック（定期試験の解答解説・成績の個別告知）

毎回、各課の練習問題のラテン語和訳をしてくること。
このラテン語和訳の前段階として、各課の重要文法事項について簡単な小課題を課す。この小課題は毎回の始めに提出してもらう。

ラテン語の発音は、講師の発音をしっかりと聞き取りつつ、各自で何度か練習しておくこと。ラテン語も語学なので声に出して読めるようにしなければならない。

教科書『新ラテン文法』は、詳細さでは随一であるが、レイアウト面で見づらく、説明が曖昧になっている点がいくつかある。その点を補うものとして、授業では解説の為の資料と、教科書とは別視点での動詞の変化表を配布する。

[履修要件]

前期開講のラテン語Aから引き続き受講するのが望ましい（必ずラテン語Aを受講していなければならないということではない）。
後期のラテン語Bから初めて参加する場合は、ラテン語Aの内容（第32課まで）を独習しておくこと。

[成績評価の方法・観点]

毎回提出してもらう小課題と定期試験の合計点で評価する。
小課題の点数は定期試験での失点を補うものとして機能する。

[教科書]

松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:978-4809643019
教科書『新ラテン文法』は、実際に古典作家たちの文章を読む際にも重宝する文法書となる。これ一冊を何度も読み返し、じっくりと付き合うことが重要になる。授業では自作の配布資料を中心とする授業にするかもしれないが、その場合でも『新ラテン文法』は参考書として購入しておくことが望ましい。

[参考書等]

（参考書）
水谷智洋 『改定版　羅和辞典』（研究社）ISBN:978-4767490250
『改訂版 羅和辞典』はできるだけ購入しておくことが望ましい。

（関連ＵＲＬ）

http://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?la=la(Perseus Digital LibraryのLatin Word Study Tool。変化形から、その見出し語の形と文法的情報が分かり、さらにラテン語-英語辞書の項目説明も参照することができる。)

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は毎回、習った課の練習問題のラテン語文を和訳をしてくること。
この際、ラテン語文の個々の単語の文法的情報、すなわち名詞・形容詞ならば性・数・格、動詞ならば法・時称・態・人称/数を、必ず分かるようにしておくこと。
この文法的情報のメモがし易いように、練習問題の各文の行間を大幅にとったワークノート形式の

ラテン語Ｂ(3)へ続く↓↓↓

ラテン語Ｂ(3)

資料を別途ダウンロード形式で配布する（自分でノートにラテン語本文を書き写してもよい）。

[その他（オフィスアワー等）]

このラテン語A・ラテン語Bは、人文・社会科学系科目群であるが、外国語科目群と同様に語学学習への強い目的意識をもって臨むことが肝要である。予習・復習には大幅に時間を使うことになるが、それこそがラテン語を学ぶことの醍醐味である。

ラテン語Bまで受講し終え文法を一通り学んだ後は、文学部の西洋古典学専修開講の講読・演習に参加すると、なお一層ラテン語とラテン文学の魅力を味わうことができるだろう。

[主要授業科目（学部・学科名）]